

Part3 | 保険適用で受けられる診療一覧



日本の健康保険制度では、体に異常があった場合の診察・検査費や、治療に必要な薬や注射（厚生労働省が認めた薬価基準にあるもの）などは保険適用される。負担割合は年齢や収入によって異なり、1～3割の負担で治療が受けられる。一般にあまり知られていないと思われる意外なものをまとめたのでチェックしておこう。

	保険適用の条件	治療法と治療期間&費用(3割負担)の目安	保険適用外の治療法と費用など
皮膚科	乾燥 ほとんどが保険適用可。ただ乾燥ではなく、アトピー性皮膚炎やアレルギー性疾患などが隠れている場合もある。	主に外用の保湿剤が処方されるが、漢方やビタミン剤などの内服薬が処方されることもある。診察・検査・治療費(薬代)を合わせて2000~1万円ほど。軽度なら2週間ほど、重度の場合は効果が表れるのに数か月かかることもある。	フォトフェイシャルや美容点滴・美容注射などで、肌に潤いを与えることができる。費用の目安は、1回5000~2万円ほど。 
	日焼け ヒリヒリと痛んだり、水ぶくれができるなど重度の日焼けの場合のみ、保険適用される。	皮膚が炎症している状態なので、炎症を抑える外用薬、炎症や痛みを抑える内服薬が処方される。診察・検査・治療費(薬代)を合わせて2000~5000円程度。だいたい1~2週間でおさまる。	美白目的なら肌の漂白剤とも呼ばれる「ハイドロキノン」などの処方が可能。のみ日焼け止めも適用外。
	にきび にきびや吹き出物が現在できている場合、にきびそのものの治療は保険適用だが、にきび痕には適用外。 	専用器具で皮脂の詰まりや膿を取り除く「コメド圧出」や、抗生物質、ビタミン剤、漢方薬などの内服薬、抗生物質や毛穴の詰まりを取り除く外用薬の処方が受けられる。	レーザー治療やフォトフェイシャルなどが有効。目安は1回5000~2万円で、にきび痕にも効果が期待できる。
皮膚科・形成外科	シミ 一般的なシミは保険適用外だが、がんが疑われるシミや、シミのように見えるアザには保険が適用される。鉛筆の芯が刺さって色素沈着した外傷性色素沈着も保険適用。	トラネキサム酸やビタミンCなどの内服薬、一部のレーザー治療が適用され、レーザー治療は大きさによるが、6000~1万2000円。	レーザー治療は1回2000~10万円。メラニン産生を抑える内服薬2000円~、ターンオーバーを促す外用薬3000円~などもある。
	イボ ほとんどの場合が保険適用。 	液体窒素による冷凍凝固療法、イボをメスで切除する方法などがある。	炭酸ガスを使ったCO ₂ レーザー療法で1万~2万円。 
	多汗症(脇汗) 脇の下に大量の汗をかき、服のシミが気になる場合、保険適用が認められる。	以前は、塩化アルミニウム剤の外用薬が主流だったが、20年からは外用の抗コリン薬が保険適用となっている。費用は2週間分が約1000~1500円。重度の場合はボトックス治療も可。	軽~中程度の多汗症の場合のボトックス治療は保険適用外。両脇を自費で行った場合は約8万円。
耳鼻科	巻き爪・陥入爪 爪の先端が内側に巻き込んだ状態の巻き爪、皮膚に食い込んで痛みがある陥入爪の治療は保険適用。	食い込んだ爪を取り除く処置、内服薬や外用薬の処方、診察時のセルフケアの指導などは保険適用。フェノール法という手術も保険適用。一般的に1か所につき、1万円ほどかかる。	症状のない巻き爪の手術は保険適用外。ワイヤー法、クリップ法などがあり、1か所につき、5000~1万円が目安。
	耳垢性塞症(耳あか) 耳がふさがっている感じがしたり、耳あかが気になる場合は保険で耳掃除が可。	耳の中専用のファイバースコープで確認しながら、専用の器具(耳垢鉗子や吸引管など)を使って耳垢を除去する。費用は約1000~1500円。	エステサロンなどで耳かき、耳掃除のメニューがあるところがあるが、こちらは医療とは異なる。自分で行う場合の頻度は、1か月に1~2回程度で充分。
	眼瞼痙攣 治療は保険適用。目のピクピクが徐々にひどくなり、両目に起きたり、顔に広がる場合は要注意。 	眼精疲労などが原因の場合は、目薬を処方。眼瞼痙攣の場合は、ボトックス治療が保険適用となり、片目で約1万7000円。	疲労が原因の「眼瞼ミオキミア」の場合は、目を休めて温めるセルフケアでOK。